

障害児支援における県内小学校と放課後等ディサービス事業所との連携した取組の可能性について — 質問紙調査を通した考察 —

I 研究目的

小学校と放デイとの連携した取組の実態を明らかにし、今後の取組の可能性について探ること

II 研究方法

西九州大学健康福祉学部
講師 土井

県内の小学校と放デイへの質問紙調査
(調査期間 R7.12 月中旬 ~ R8.1 月下旬)

III 調査結果（中間報告）

1. 連携の必要性あり！

「大変必要」「やや必要」の回答がほとんどであった。

- ・送迎時の情報共有
- ・保護者を介した情報共有
- ・特定児童に関するケース会議
- ・二者間での連絡会議の実施 など

3. 連携上の課題あり！

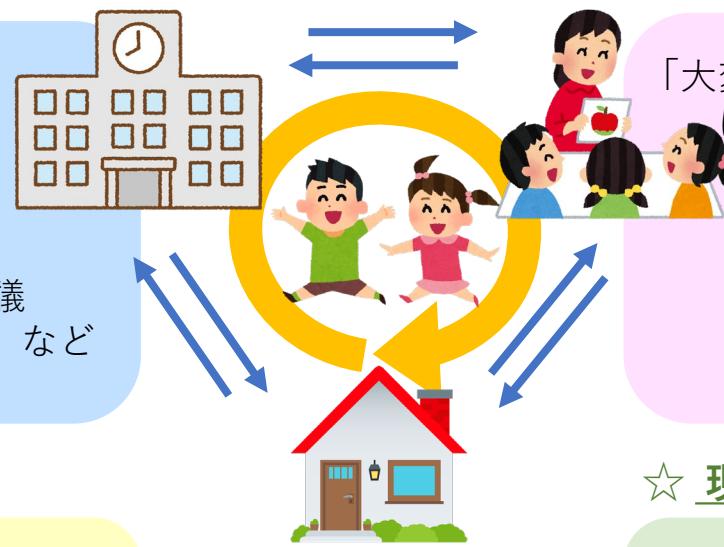
「大変ある」「少しある」の回答がほとんどであった。

- ・業務の多忙さ
- ・業務時間のずれ
- ・個人情報の取扱い

2. 取組はこれから！

「ときどきある」「あまりない」の回答がほとんどであった。

- ・送迎時の情報共有
- ・特定児童のケース会議



☆ 現在（申請時）、調査期間中 ☆

当日は、最終結果と考察をポスター展示いたします！



※本研究は、「TSUNAGIプロジェクト連携事業」で佐賀県と共同で行っております。